

平成27年度 庄内南部定住自立圏共生ビジョン懇談会（会議概要）

- 日 時 平成27年11月16日 午後2時から
- 会 場 鶴岡市役所6階 大会議室
- 次 第 (1) 庄内南部定住自立圏共生ビジョンの改定について
(2) その他

1. 開会 : 進行 政策企画課 粕谷課長補佐
2. あいさつ : 政策企画課 高橋課長
3. 協議 座長: 石黒会長、協議資料説明: 政策企画課 上野主査

以下意見の概要

医療分野

○委員

福祉事業・介護保険事業等でも看護師の確保が非常に難しくなっているが、庄内地方は看護師を養成する学校の定員が少ないのではないかと。

→事務局: 医療に関しては、まず医師確保を重点的に取り組んでいるが、県への重要事業要望などでは、鶴岡市としても看護師の確保を常々要望している。

鶴岡市立の看護専門学校は定員が20名、酒田市立の看護専門学校は定員が30名で、毎年正看護師が50名ほど卒業生しているが、地元定着率が低いことが課題となっており、これからの取り組みが重要であると市、県としても認識している。

○委員

地域医療の格差が出てきているのではないかと感じており、特に三川町は総合医療を担う病院や医院がないので、医師確保あるいは看護師の確保をしっかりと行ってほしい。

また、医療は鶴岡市だけの問題でなくて、地域として一番重要であるので、町の予算も組み入れながらこの問題に取り組んで欲しい。

→事務局: 三川町の住民にとっても大きい課題であるので、今後どのような連携や取り組みが可能であるのか課題としたい。

○委員

高齢者が最後まで暮らしてきた地域に住みたいという話を聞くが、がんの終末ケアなどで医療関係者の協力を得て、終末期医療の周知を図ったほうがよい。また、新たに開設されたところの医療センターも、地域の人が有効に活用していけるようPRしたほうが良い。

子育て分野

○委員

病児・病後児保育については、共働きや近くに見てもらえる人が居ない方のために、できるだけ多く受け入れできるようにしておくべきで、こうしたことに対応するため、市町村が連携し支え合い、受け入れ人数の拡大を図るべきである。

福祉分野

○委員

4月から生活困窮者自立支援法関係の相談業務が始まっているが、どのような状況か。
→事務局： 支援法がこの4月から施行になり、鶴岡地域生活支援センターを市役所内に設置し、鶴岡市と三川町をカバーする体制となっている。業務は鶴岡市社会福祉協議会へ委託しており、10月までの相談件数は鶴岡市民が100件を超え、三川町民は場所が離れていることもあり少ない状況である。

○委員

介護施設に入りたい待機者が多くいるようだが、施設を選ぶ際の基準や施設の特色等が明確になるとよい。

女性センター分野

○委員

鶴岡市中央公民館女性センターの講座には、庄内町と三川町から参加が無い講座もあるので、多くの方が参加できるように、もう少し情報発信を増やしたらいいのではないかと。

○委員

女性センターには、課ごとの縦割りではなく、複合的な要素を持った相談窓口機能を持って欲しい。

産業分野

○委員

ビジョンでは、産業人材育成などが産業振興施策の核となっており、庄内産業振興センターと鶴岡高専でそれぞれ企業向けの技術セミナーを行っているが、双方の情報交換や連携した取り組みはどのようになっているのか。

→事務局： 庄内産業振興センターと鶴岡高専とは、鶴岡高専の先生が産振センターを会場に様々な技術等に関するセミナーなどを共同で開催するなど、双方連携しながら行っている。

○委員

産業振興として、育苗施設等の農業施設相互利用に取り組んでいることは、大変ありがたいが、この中にはJAあまるめのことや三川町の事業費が載っていないのはなぜか。

→事務局： 育苗施設については、JAあまるめにニーズがあるのか把握していない。事業費に三川町分が入っていないのは、鶴岡市の農家に対する庄内町の花弁育苗施設と三川町の野菜育苗施設利用への価格差補助のみを計上しているためである。

伝統芸能分野

○委員

伝統芸能祭開催事業として、各地域の伝統芸能を持ち回りで開催したいとのことだが、大変これもすばらしいことである。これからは、伝統芸能を守っていく人が少なくなり、かなり厳しい状況になっていくので、PRや披露する場をつくることにより担い手が増えていくのではないかと。また、地域の伝統文化を維持していくための方策も加えて欲しい。

婚活分野

○委員

人口減少に対応するには婚活対策が非常に重要となるので、独身の方々に結婚は幸せなんだということを周知することが必要である。また、高校、大学等の卒業後に仕事しなければ若い人たちは定着しないので、産業の振興も大切である。

人材育成分野

○委員

圏域内の市町職員等の交流という形で研修を行っているが、今後の施策につなげていくような研修にして欲しい。

計画について

○委員

ビジョンに掲載されている事業が多いので、IDを付けるか又は目次に事業名をすべて載せるなどしたほうが全体の内容を把握しやすい。

○委員

事業について町の広報にも載るが、「定住自立圏共生ビジョンの事業です」と書くなど、広報の仕方を工夫すれば定住自立圏のPRにもなるのではないかと。

○委員

事業の検証をまとめたものを懇談会の委員へ提示して欲しい。